

くと考えられる。普及組織と農業試験場が連携し、現地での実証展示ほの設置・運営により、新たな技術の普及定着に努めていく。

(4) 病害虫、雑草の発生

飼料用米は、一般栽培と比べ雑草、病害虫とも防除圧がやや低く、雑草や病害虫が発生しやすい傾向にあり、一般栽培ほ場への影響が懸念される。交付金制度の活用と併せ、安定多収生産の観点から、病害虫等の発生状況に応じた適切な防除指導を徹底していく。

①病害虫防除

現在、新規需要米を含む本県稲作において最も重要な病害虫は、ヒメトビウンカが媒介する「イネ縞葉枯病」である。常発地帯においては、抵抗性品種の

導入や薬剤による体系防除などにより、その発生を抑制していく。なお、本県における飼料用米の奨励品種(認定品種)は、全てイネ縞葉枯病抵抗性品種としている。

②雑草防除

飼料用米生産において、病害虫同様、防除圧が低いことによる雑草の発生が一部地域で問題となっている。具体的草種としては、ヒエ、ホタルイ、イボクサ、クサネム等である(写真-1)。これらの草種は、飼料用米の収量や品質の低下を招くだけでなく、斑点米カメムシ類の増加、収穫物への雑草種子混入等、周辺の主食米の品質に影響を及ぼす可能性がある。今後も雑草防除の徹底を推進していく。



写真-1 飼料用米生産圃場の雑草(左:ヒエ, 中央:イボクサ右:クサネム)

コラム

老化現象

私は学生のころから花粉症がひどく、毎年2月～5月にかけて症状と薬の眠気のせいで憂鬱な日々を過ごしています。数年前に「花粉症がひどかったんだけど自然に治った」という人がいて、「そんなことはないだろう」と思っていたのですが、私も2年前くらいから、治ったわけではないですが、以前よりも症状が軽くなってきているような気

がしています。なぜかはわかりませんが、老化のせいなのかなあとも思ったりしています。最近では近くの字が見えにくくなったり物忘れが多くなったりと年をとったなあと思うようなことが多いのですが、年をとることで改善されることもあると前向きに思うようにしています。

内藤健二(埼玉県)